



アメリカ合衆国における情報源としての インターネット利用

南カリフォルニア大学 老年学部 博士課程 上 田 博 司

パソコンの普及

現在、世界で稼働中のパソコン（パーソナル・コンピュータ）の台数は3億6,400万台（1998年末）と報告されています。国別にみると、第1位のアメリカ合衆国（以下アメリカ）は1億2,900万台（全体の35%）で、第2位の日本は3,280万台（9%）となっています。これを単純計算すると、アメリカでは2人に1台、日本では4人に1台のパソコンを使っていることになります。

パソコンが急速に普及していった背景には、パソコン本体や周辺機器などのハード面における質の向上や低価格化が考えられます。それに加え、マイクロソフト社の“ウィンドウズ”にみられるように、かつてコンピューターのプログラムに精通していなかった人でも、パソコンが簡単に使えるようなソフトウェアが開発されたことが挙げられるでしょう。

インターネットの普及

アメリカでは、インターネットが「情報スーパーハイウェイ」の原型として、クリントン政権によって1994年に採用されました。以来、通信費が安いこともあってインターネットは専門分野以外の人々の間にも急速に普及していきました。インターネットの使

用者と使用頻度は年々増えてきており、数年前からインターネットに毎日アクセスする人の割合が、毎週アクセスする人の割合を超えるようになりました。

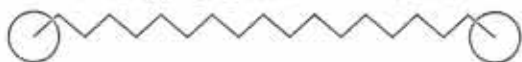
インターネットの利用者は若い年齢層だけに限りません。アメリカでは、教育機関で学生が利用するのは勿論のこと、高齢者向けのインターネット教室が地域サービスの一環として提供されています。パソコンの普及で自宅でも容易に利用できるという便利さから、広い年齢層にわたってインターネットの利用が浸透しています。

インターネットの利用目的

インターネットの利用目的は利用者により様々で、検索、教育、電子メール、娯楽、ニュース、趣味、ゲーム、その他（パソコン情報、投資、ショッピング等）が挙げられます。また、インターネットは多忙な現代人にとって、迅速に情報を提供する貴重な手段です。特に情報検索を目的としてインターネットを利用する人は数多くみられ、仕事や個人の生活のための情報を得る手段として幅広く使われています。項目によっては高齢者のニーズを特に強く反映しているものもあり、住宅、資産、ボランティア活動、生涯教育、レジャーやリクリエーションを含む社会活動、また病院・医院のような医療機関や健康に関する情報を検索する方法

などは今後さらに多用されるでしょう。勿論、これらの情報項目は年齢を問わず関心が高いものでもありません。

医療情報を提供する機関



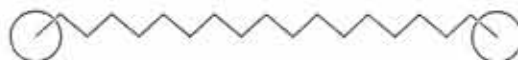
そこで、アメリカのある医療情報提供機関を一例として紹介します。この機関では医師や医療従事者だけに限らず、患者や一般の人に対し、医療や健康に関する情報をインターネットを通じて提供しています。この機関は医療機関の医師や専門のジャーナリストをつかって、質の高い、洗練された様々な情報を随時更新しています。まず、その月の医療ニュースと出来事が短く紹介しており、利用者はそこから詳しく記述されたページに進むことができます。また、医師と患者（または医療に関心がある人）が、インターネットを通じて間接的に交流が図れるようになっています。利用者が医療従事者の場合などは、本人の職種を選ぶことによって専門情報を入手することもできます。

検索機能も充実しており、一般検索から特定の疾患についての情報や医学用語に至るまで、多岐にわたる検索を行うことができます。診療科別や診断名による検索も可能で、利用者の細かい要望に応えられるようになっています。医師の検索も可能となっており、例えば、診療科目、指定した地域からの距離、医師の性別、診療経験年数、医療保険等によって希望にあった医師を限定でき、医師の氏名による検索も行えます。

更に特筆すべきものとして、この機関は医師に対する評価を利用者から収集しています。評価項目には（１）予約の容易さ、（２）診察までの待ち時間、（３）職員の対応、（４）診察時間、（５）医師の対応、（６）予防に関するアドバイス、（７）医師による説明等が含ま

れています。このように、医療サービスが必要な利用者にとって非常に有益な情報が網羅されていることが、この情報機関の特徴といえるでしょう。

高齢化社会における インターネットの利用



ここでは高齢者の利用頻度が高いと思われるインターネット上の一機関を紹介しました。実際、どの年齢層にもいえることですが、インターネットを利用するにあたって注意しておきたいのは、情報が氾濫している現代社会において、いかに正確な情報を入手するかということです。特に医療や健康に関する情報を入手する場合、情報提供源となりうるところが、どのような目的で情報を発信しているのか、また発信している情報に欠落や間違いはないかをしっかり確認しておく必要があります。そのために、情報発信源まで調べる必要があるかもしれません。インターネットから得られる情報、特にスポンサーがついているものには、歪んだ情報が含まれていないとは限らないからです。

高齢化社会においては、インターネットを使い慣れた家族が、健康に問題のある高齢者に代わって医療や健康に関する情報を探すこともあります。ですから、先に述べた注意点は高齢者のみの利用に当てはまるものではありません。

文明の利器としてのインターネットは今後ますます発展し、情報発信の場として大きな役割を担うようになっていくことでしょう。情報提供側は、より洗練された利用価値が高い情報を提供する努力が不可欠となってきます。一方、インターネット利用者は、更に賢く情報を選んでいくことを心がけていく必要があるでしょう。